

(様式1) ※A3判(1枚)に収める。実践充実プランの内容と年間推進計画書との整合性に留意して記載すること。

「道徳教育推進拠点校事業」実践充実プラン 室戸市立 吉良川小学校		校長	小松 良浩	教員数	13	学級数	児童生徒数	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年		合計	
		道徳教育推進教師	谷内 佳子	5	1			12	2	7	2	11	1	10	1	12	2	57	8		
研究テーマ		思いや考えを表現し、認め合い、学び合う児童の育成 ～友達との関わりを大切にし、自己を見つめ、考えを深める道徳の授業実践を通して～																			
年度当初の学校の状況		到達目標				中間検証(下半期に向けての改善事項)								年度末(到達目標達成状況)							
道徳性に関する現状 本校の児童は、道徳の学習に対して、自ら考え、ペアやグループでの話し合いを通して他者の考えから学ぼうとする姿が見られる。昨年度行った道徳意識調査における肯定的評価の割合は、①「道徳の勉強はすきだ」89.7%、②「道徳の授業では、他の人の考えを聞いたりしながら、自分のことについてよく考えている」91.4%であった。しかし、考えを伝え、聞き合うことに留まり、よりよい考えへと深めることが不十分である。 『高知の道徳』を使った家庭との連携については、ほぼ全ての家庭から返信があり、その結果を道徳だより等で発信している。しかし、意識調査③「家の人と道徳の話をしたり、『高知の道徳』を読んだりしている」の肯定的評価の割合は58.6%で低かった。		道徳意識調査の肯定的回答の割合の向上 ①「道徳の勉強は、すきだ」 93% ②「道徳の授業では、自分の考えを伝えたり、ほかの人の考えを聞いたりしながら、自分のこと(生き方)についてよく考えている」 93% ③「家の人と道徳の話をしたり、『家庭で取り組む 高知の道徳』を読んだりしている」 63% ④「自分には、よいところがあると思う」 90% ⑤「将来の夢や目標をもっている」 90% ⑥「人が困っているときは、進んで助けている」 90% ⑦「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」 90%				・授業づくりにあたっては、まず『学習指導要領解説』内容項目の指導の要点を確認する。指導案検討の際は、最初に全員で読み合わせを行う。 ・授業者と道徳教育推進教師の事前研の質を向上させるために、ねらいや発問についてだけでなく、「時間管理」「ほめる・承認」という項目を授業評価の観点として付け加え、事後研での振り返りに活かす。 ・学級担任が自らの道徳科の授業をふり返し、課題と改善のための取組を記載した「授業づくりシート」を作成し、道徳教育推進教師との協議に利用した。毎授業後、また、長期休業中には学期を通しての協議を行うことにより、具体的な自己目標と次学期の重点取組の設定から、授業改善への意識化を図る。 ・学級担任が他校(指定校)の公開授業へ参加できるように体制を整える。								道徳意識調査の肯定的回答の割合(目標値との比較) ①「道徳科の学習に対する意識」78.2%(-14.8p) ②「道徳科の学習への参加の仕方」94.5%(+1.5p) ③「家庭との連携」50.9%(-12.1p) ④「自尊感情」80.0%(-10.0p) ⑤「夢・志」85.5%(-4.5p) ⑥「援助」87.3%(-2.7p) ⑦「社会貢献・郷土愛」92.7%(+2.7p) ◆②⑦は向上し、到達目標を達成。①③④⑤⑥は低下し、未達成。 ◇②はどの学年も年度当初より向上しており、授業づくり講座に取り組み、多様な意見や考えを認める授業ができるようになった成果であると考えられる。その一方、①は目標値を大きく下回っており、教師が切り返して深めることを意識した結果、何度も問い返され、考え直し、表現することを苦手と感じる児童がいると考えられる。							
到達目標達成のための取組		取組計画 ※評価 A(十分できた) B(おおむねできた) C(あまりできていない) D(全くできていない)																			
取組項目	取組の評価指標	5月～8月				中間評価	9月～2月(中間検証を踏まえての追記・変更可)								達成状況				年度末評価		
道徳科の趣旨を踏まえた指導計画の充実	◆研究推進委員会をもって、進捗管理を行う。(毎月1回以上) ◆各学年の年間指導計画、別業に基づく取組の検証(3回以上) ◆管理職または道徳教育推進教師が、毎週、全学級の道徳科の授業を参観する。	①道徳教育の全体計画(別業)、各学年の道徳科の年間指導計画の作成(5月上旬に提出) ②管理職または推進教師が全道徳科の授業を参観できる体制の構築 ③授業者と推進教師が、事前研→授業実施→事後研のサイクルにおいて、短時間で打ち合わせする時間の確保。 ④児童の意識調査結果の協議・取組策の検討(研究推進委員会)				B	①全体計画(別業)、年間指導計画の実質化 ・道徳科の内容と各教科等との関連について月末に当月分を検証し、気付きを記入すると共に、次月分を確認する。 ・道徳科の年間指導計画の評価欄への記入(事後研にて随時) ②管理職または推進教師による全道徳科の授業参観 ③授業者と推進教師による事前研→授業実施→事後研のサイクル化と授業の質の向上 ④児童の意識調査結果の検証・改善策の検討(研究推進委員会)								◆研究推進委員会は8回実施で未達成。 ◆各学年の年間指導計画、別業に基づく取組の検証(3回)で達成。次年度からの低・中・高学年での複式(A・B年度)による道徳科年間指導計画等諸計画の作成に活用。 ◆道徳教育推進教師が、毎回、全学級の道徳科の授業を参観・指導。授業者も「授業づくりシート」に記載した重点取組についてふり返し、授業改善が図られた。				B		
道徳科の趣旨を踏まえた「考え、議論する道徳」の授業研究	◆道徳授業チェック【教師用】【児童用】を3.5以上にする。 ◆授業づくり講座(教材研究会・授業研究会)を2回行うにあたり、校内での事前研(教材分析・指導案検討会)を設定する。	①授業づくり講座(教材研究会・授業研究会)2回 ※公開 ②授業づくり講座に向けた事前研(教材分析2回・指導案検討2回・講師招聘) ③道徳授業チェックシート(全教師、全児童)の結果分析及び授業改善策の検討 ④学習指導案、教具、板書写真、ワークシート等の整理・保管 ⑤他校(指定校)の公開授業への参加(2回、計2名)				B	①公開授業(低・中・高各1学年)(11月) ②講師招聘研修(講演会:畿央大学 教授 島 恒生氏) ③道徳授業チェックシートの結果分析及び授業改善策の検討 ④学習指導案、教具、板書写真、ワークシート、授業記録等の整理・保管 ⑤他校(指定校)の公開授業への参加 ⑥各学年の「道徳のあゆみ」(教材名、児童の意見)を教室内に常時掲示								◆授業づくり講座 参加者数 外部 ①8人 ②10人 ③22人 ④9人 校内 各回13人 ◆校内での事前研計11回(内、模擬授業7回)で達成。 ◆道徳教育研修会 参加者数 外部25人 校内13人 ◆道徳授業チェック【児童】3.5→3.7で達成。 【教師】2.8→3.1で向上は見られるが未達成。 ◆「あゆみ」を9月以降全学年で常時掲示。他教科、総合的な学習の時間及び特別活動等の指導にも活用。				A		
道徳科の趣旨を踏まえた評価の研究	◆評価の仕方を共有する。(学期1回) ◆学期末の個人懇談で、学習状況や道徳性にかかる成長の様子を保護者に伝える。	①道徳ノートを活用して、学習状況や道徳性に係る成長の様子を把握→ブロック会で評価について検討 ②評価の仕方を校内で共有→学期末の個人懇談で保護者に伝える。				B	①道徳ノートやワークシート等を活用して、学習状況や道徳性に係る成長の様子を把握→ブロック会で評価について検討 ②あゆみ(通知表)と指導要録への評価の仕方を校内で共有→学期末の個人懇談で保護者に伝える。								◆評価について共通理解を図ると共に、長期休業中に全教職員で実際の評価文を見合う機会を設けた。道徳ノートやワークシートの記述、児童の発言(T-C)、板書等を評価の資料とした。				A		
家庭・地域と連携した道徳教育の推進	◆全学級公開による道徳参観日を実施し、保護者参加率を60%以上に ◆学校だよりや道徳だよりで『高知の道徳』の内容や取組・成果について発信する。(毎月1回以上)	①参観日に『高知の道徳』を活用した懇談会の実施(各学年) ・『高知の道徳』に係る家庭の取組を校内に掲示して紹介する。 ②毎月の便りに、授業の様子や『高知の道徳』の内容を紹介し、家庭や地域に配布して啓発を図る。				C	①全学級公開による道徳参観日の実施(1月土曜日開催) ・講演会 ・『高知の道徳』に係る家庭の取組を学期に1回程度行い、校内に掲示して紹介する。(p.6～子どもの心のメモリアル、p.16,17 家庭で行う7つの取り組み) ②毎月の学校便りに、道徳科の授業の様子や板書写真、『高知の道徳』の内容を紹介し、家庭や地域に配布して啓発を図る。								◆道徳参観日(市P連共励会と同日開催で他校の保護者、教職員にも公開) 全学年で『高知の道徳』を活用。保護者参加率 57.8%で未達成。 ◆3つの学年で保護者参加型の参観授業を実施。参加者には概ね好評。全学年での実施をめざす。 ◆『高知の道徳』の取組は年間2回で未達成だが、全家庭が記入。通信等での情報発信は6回で不十分。				B		